

# 上宮寺通信

第四十九号

## 彼岸花

今月はお彼岸をお迎えします。ちょうどお彼岸の頃になると咲くのが「彼岸花」。長い茎と赤い花が印象的な植物です(最近では白や黄色の彼岸花もよく見かけますが)。

色鮮やかな花びらは、妖しげな雰囲気さえ醸し出し、綺麗というよりも何となく不気味と感じる人も多いのではないのでしょうか。咲いている場所も墓地などが多く、彼岸花に対するイメージというのはいえあまり良いとはいえないものです。

新美南吉の童話「こんぎつね」でも彼岸花が象徴的に出てきますが、葬儀の野辺送りの場面で悲しい光景を想像させます。

では、なぜ彼岸花が墓地に多く植えられているのか。一説には彼岸花の持つ強い毒性が関係しているとも言われています。

昔は火葬ではなく土葬が主流で、墓を荒しにくるタヌキやモグラなどの動物もいたそうです。それら動物に彼岸花の毒が有効であったとも。

ただ彼岸花は毒があるといっても、水に晒せば毒は抜け球根からは良質なでんぷんがとれるため飢饉などの非常用の食物とされていたそうです。

先人たちは彼岸花の毒にあたらぬよう、また非常用の食料として大切にするために、あえて不気味なイメージをつけてむやみに採られないようにしたのかもしれません。

そのため「もちかえると火事になる」「摘むと死人がでる」「触ると手が腐る」など言い伝えられている地域もあるとのことです。

さて、この彼岸花は別名の多い花でも有名です。一番有名なものは「曼珠沙華(まんじゅしやげ)」。これはインドのサンスクリット語からきています。「天上に咲く赤い花」という意味で、仏教経典にも登場します。

お釈迦様が多くの菩薩様を前に大乘の教えを説いた時に天から花が降ってくるという光景が説かれています。その花の一つが「曼珠沙華」。そして、「これを見る者は必ずから悪業を離れる」ともいわれています。

煩惱でいっぱい私たちは悪

業を離れることは無理でも、悪業を知ることができません。

この時期、道端などのちょっとしたところ咲く彼岸花に出会ったら、自分自身を振り返るようにと仏様がうながしておられるのだと受け取ってみてはいかがでしょうかでしょう。



◆行事案内

上宮寺の行事

秋季彼岸会・永代経法要

9月10日(土)午前10時

法要 引き続き 落語

落語 石亭いんこさん

(司法書士落語家)

※午前だけの法要といたします。お齋(食事)、呈茶はございませんのでご了承ください。

本山報恩講団体参拝(日帰り)

11月24日(木)

東本願寺報恩講(連夜)参拝、

妙心寺・退蔵院見学 他

参加費 一四、〇〇〇円

定員 30名(定員になり次第締切)

※今後の新型コロナウイルス感染状況によっては変更する場合があります。

その他の行事

第70回 舞楽と管絃の会

10月5日(水) 18時半

名古屋芸術創造センター

【演目】

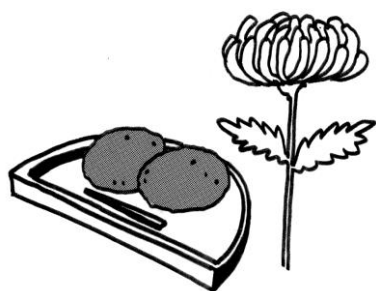
管絃 盤渉調越殿楽・白柱

朗詠 十方

舞楽 納曾利 陵王

※入場無料

今後の状況によっては中止となる場合があります。



◆話題あれこれ

○今年のお盆もたくさんの方にお参りいただきありがとうございます。小さい子どもさんも一緒に参りに来られた方が例年より多く見受けられました。お子さん用に用意したお菓子が足りなくなるかとヒヤヒヤでした。

○先月号でお知らせの通り、秋のお彼岸・永代経法要は法要の後、司法書士落語家の石亭いんこさんによる「相続・遺言落語」をお楽しみいただく予定です。先行き不透明な時代、聞いておいて損はないと思いますよ。

○新型コロナの第七波がなかなか収まりません。どうか感染対策をしっかりとお気をつけてお過ごしください。

【雑感】

今年も数々のドラマを見せてくれた夏の甲子園。愛知県代表の愛工大名電はベスト8に進出するも悲願の全国制覇は果たせませんでした。でも、2回戦の八戸学院光星戦の粘りはすごかった。今大会のベストゲームといてもいいのではないだろうか。その愛工大名電を破ったのが優勝した仙台育英。東北勢初の優勝というのも意外でした。入学前からコロナ禍で翻弄された今の高校生たちに送った監督の優勝インタビューも感動。優勝チームに名監督ありです。 (住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547